

植松 専務
講演する



植松電機の専務

何か失敗しても
あきらめないで

小型ロケット
開発経験語る

【大樹】道産小型ハイブリッドロケット「CAMUI(カムイ)」の研究開発に携わる植松電機(赤平市)の植

松専務による講演会がこのほど町福祉センターで開かれた。植松専務は『どうせ無理』という思いを『だったらこうしてみたら』に変えて」と訴えた。

町教委、日本宇宙少年団大樹分団主催。町民約70人が訪れた。

植松専務は「思うは招く」と題して、紙飛行機などに熟中した少年時代のエピソードから現在の同ロケット開発までを振り返りながら、夢や仕事について持論を展開。何かに失敗したとき、「どうせ無理」ではなく「たぶん」だったらこうしてみれば」という発想を持って、あきらめずに取り組む続けることの大切さを説いた。さらに「仕事や夢は1つじゃなくていい。たくさんあることは中途半端ではない。そして、同じ夢を持つ人と仲良くなるのが一番いい」と締めくくった。

講演後には専用キットを使用したモデルロケット教室が同センターで開かれ、町多目的航空公園で実際に打ち上げた。芽室小1年の声澤大地君(7)は「難しかったけど、自分で作って楽しかった」と話していた。(佐藤圭史)